



第1回

世界が認めた「日本の原点」 — 奈良から始まる新たな価値創造

2026年7月、「飛鳥・藤原の宮都」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。古代日本が中央集権国家として形づくられていった時代、その政治・文化・宗教の重要な舞台となった飛鳥・藤原の地が、人類共通の財産として世界に認められたことは、奈良県にとって大きな喜びであるとともに、地域の未来に向けた新たな一歩でもあります。

本コーナーでは、この世界遺産登録を契機として、「Research Eye 世界遺産『飛鳥・藤原の宮都』から考える地域の未来」と題した全6回の連載をお届けします。世界遺産として評価された理由や構成資産の魅力を紹介するとともに、観光、地域経済、企業活動、地域ブランド、住民の暮らしなど、さまざまな視点から、世界遺産登録が奈良県にもたらす可能性について考えていきます。

日本の国家形成を物語る「飛鳥・藤原」の価値

飛鳥・藤原は、日本が古代国家としての姿を形づくっていった歴史の舞台です。6世紀末から8世紀初頭にかけての約100年間、この地では政治制度の整備、仏教文化の受容、都城の建設など、日本の歴史を大きく変える出来事が数多く起こりました。

中国や朝鮮半島との交流を通じて先進的な制度や文化、技術を取り入れながら、日本独自の国家と文化を築いていった過程を、現在も遺跡や歴史的景観を通じて知ることができます。

今回の世界文化遺産登録で評価されたのは、個々の遺跡の価値ではありません。宮殿、寺院、古墳など多様な資産が一体となり、日本の国家形成の過程を連続的に示している点に、顕著な普遍的価値が認められました。飛鳥・藤原は、まさに「日本の原点」を今に伝える歴史空間です。

世界遺産登録が地域にもたらすもの

世界遺産登録は、歴史的・文化的価値が国際的に認められたという意義にとどまりません。地域の魅力を国内外に発信し、未来のまちづくりを考える大きなきっかけにもなります。

登録を契機に国内外からの注目が高まれば、その地域を訪れてみたいという関心が広がり、観光交流の拡大や地域ブランドの向上、企業活動への波及、新たな人とのつながりの創出など、さまざまな効果が期待されます。

一方で、世界遺産に登録されたからといって、自動的に観光客が増加し、地域が活性化するわけではありません。大切なのは、世界から認められた価値を分かりやすく伝え、訪れる人がその魅力を体験できる環境を整え、地域の発展につなげていくことです。



世界遺産の価値を一時的な話題で終わらせず、地域の未来へつなげていくためには、観光、産業、教育、まちづくりなど、幅広い分野での連携が欠かせません。世界遺産登録は「ゴール」ではなく、新たな挑戦の「スタートライン」といえます。

「守りながら生かす」という視点

世界遺産には、その価値を未来へ引き継いでいく責任があります。そのためには、文化財を適切に保存することはもちろん、その価値を地域の魅力づくりに生かしていく視点も必要です。

これから求められるのは、「守りながら生かす」という考え方です。歴史的景観や文化財を大切に守りながら、観光や教育、地域産業、企業活動などに活用し、地域全体の価値を高めていくことが重要です。

地域住民が誇りを持って暮らし、訪れる人が歴史や文化に触れ、その価値を共有する。その積み重ねによって、世界遺産は地域に根付き、未来へ受け継がれていきます。

世界遺産は、過去の価値を守るためだけのものではありません。その価値を地域の未来を創る資産として生かし、持続可能な地域づくりへ結び付けていくことが、これから求められる視点です。

(丸尾尚史)

＝次回予告＝

第2回「登録後の地域変化と観光動向」では、世界遺産登録後の観光客の動向や情報発信の変化を取り上げます。滞在型観光への期待や受入環境の整備、奈良ならではの観光の魅力と課題を整理し、地域活性化につながる方向性を考察します。

世界遺産構成資産 (Part 1)



飛鳥宮跡 (明日香村)

7世紀に、4時期（飛鳥岡本宮、飛鳥板蓋宮、後飛鳥岡本宮、飛鳥浄御原宮）にわたり天皇の宮殿が営まれた跡。政治・儀礼の場と居住空間が一体化した初期の王宮で、645年の乙巳（いっし）の変など古代史上の重要な舞台となった。



藤原宮跡 (橿原市)

律令制度に基づく中央集権国家の成立を象徴する宮殿跡。約1キロ四方の藤原宮と約5キロ四方の藤原京が計画的に造営され、天皇を中心とした政治・行政の拠点となった。その構造は、後の平城京や平安京の原型と考えられている。



飛鳥京跡苑池 (明日香村)

7世紀中頃に造られた飛鳥宮付属の庭園跡。南池と北池からなり、導水施設や噴水、石槽など高度な技術を用いた石造物が設けられた。中国・朝鮮半島の影響と日本独自の意匠を併せ持つ、初期の日本庭園を示す遺跡である。

写真提供：世界遺産「飛鳥・藤原」協議会HP